

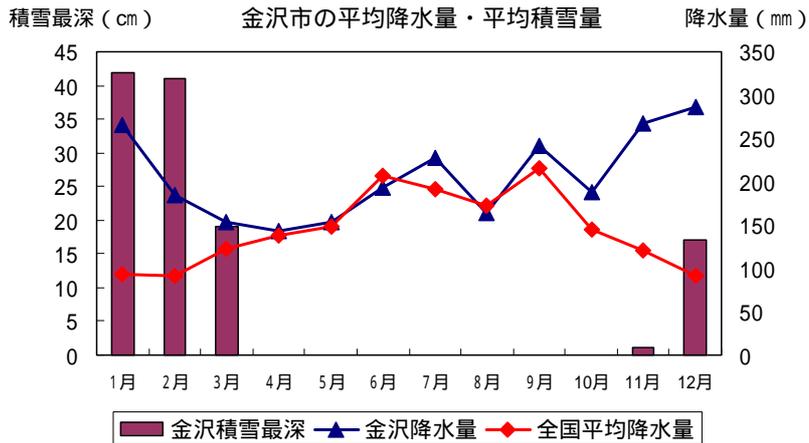
## 指標 4

# 冬期の快適性確保率

### 現状と課題

#### 石川県は全国でも有数の多雨・多雪の県

日本海式気候の気候区に含まれる石川県は、一年を通して降水がみられ、特に冬期の降水・積雪が多い。



金沢積雪最深：1971～2000年の30年間の平均  
 金沢降水量：1971～2000年の30年間の平均  
 全国平均降水量：1971～2000年の30年間の26観測地点の平均

出典：金沢気象台ホームページ  
 総務省統計局「日本の統計2003」

#### 降雪による交通への影響

毎年、降雪・積雪に伴う交通障害により、県民生活や地域経済に多大な影響が発生している。



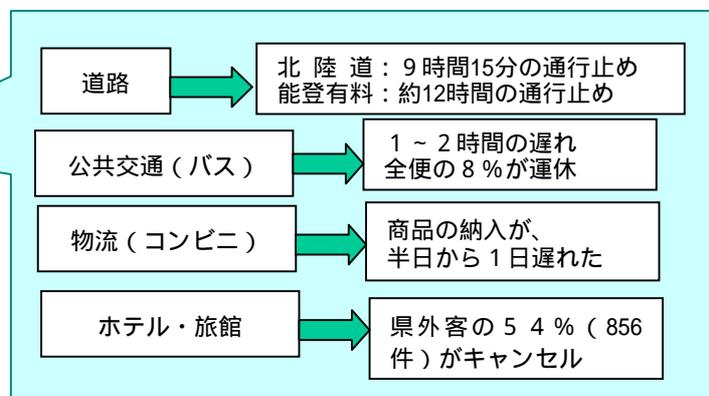
すれ違いが困難（金沢市有松町地内）  
平成13年1月15日



雪による渋滞（国道159号高松町地内）  
平成13年1月15日

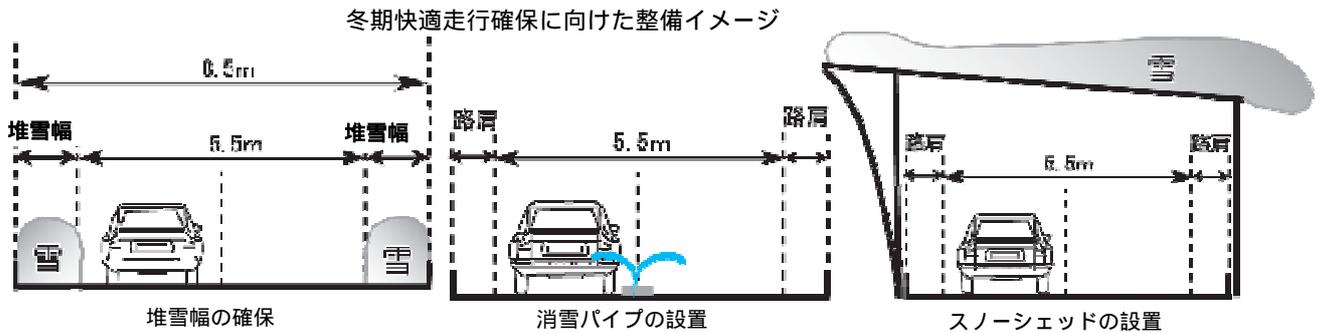


平成13年1月の新聞記事



## 取組みの方向性

年間を通じての円滑な移動を確保するため、地域連携道路において、堆雪幅の確保や消雪パイプ等を整備することによって、冬期でも快適に安心して走行できる道路環境を確保します。



人家が連続している区間や急坂路などにおいては、消雪パイプの整備・更新等により、冬期の快適な自動車走行性の確保を図ります。

路面監視カメラにより、リアルタイムに冬期の路面状況を把握し、パソコンなどに提供するなど、道路利用者への情報提供を進めます。

住民との協働による冬期の歩行空間の確保に向け、ボランティアサポートによる歩道除雪など、ハード・ソフト両面からの取組みを進めます。



## 取組みの成果指標

冬期の快適性の確保を示す指標として、地域連携道路の整備済み延長の割合を代表指標として採用しました。

$$\text{冬期の快適性確保率} = \frac{\text{冬期快適性確保に向けた整備の行われた道路延長}}{\text{地域連携道路の総延長}}$$

\* 対象道路：地域連携連絡（国道、県道）約 293km。なお、ダブルラダー指定路線については、成果指標 2「高速ネットワーク確保率」においてすでに評価対象としているため、対象道路から除きます。

\* 冬期快適走行確保に向けた整備の行われた道路とは、堆雪幅が確保された道路（車道幅員 8.5m 以上）もしくは、消雪パイプやスノーシェッドの雪対策がなされた車道幅員 5.5m 以上の道路

## 冬期の快適性確保に向けた平成 15 年度の成果目標

冬期の快適性確保率を H14 年末の 69.2% から、H15 年末には 70.9% へ、約 2% 増加させることを目指します。

項目	H14 末	H15 末計画	増
冬期の快適性確保率 (確保延長)	69.2% (202.9km)	70.9% (208.1km)	1.7% (5.2km)



### H15 年度に供用を予定している主な箇所

路線名	箇所名	延長	整備内容
(主)金沢小松線	川北町山田先田～出口	1.1km	堆雪幅の確保
(主)小松加賀線	加賀市篠原新	0.4km	堆雪幅の確保
(主)鶴来美川インター線	松任市安吉	0.7km	堆雪幅の確保
(主)七尾羽咋線	鹿島町芹川～井田	0.8km	消雪パイプ
(一)倉部金沢線	松任市徳光～相川	1.0km	堆雪幅の確保

### 人家が連続している区間や急坂路等における消雪パイプの整備

	H14 末	H15 末計画	増
消雪パイプ延長	約 369 km	約 380 km	11 km

### 路面管理の高度化と情報提供

冬期の路面状況の情報をパソコンや携帯電話でリアルタイムに提供します。

	H14 末	H15 末計画	増
路面監視カメラ (ITV) の設置数	126 カ所	159 カ所	33 カ所

### 冬期バリアフリー計画 の策定

平成 15 年度は、金沢市において、冬期の歩行者の安全性を高めるため、冬期バリアフリー計画を策定します。

冬期バリアフリー計画とは、人が多く集まる鉄道駅周辺や中心市街地、通学路等、特に安全で快適な歩行者空間が必要なエリアを指定し、除雪の充実や消雪施設、流雪溝の整備など、様々な冬期バリアフリー対策を重点的に進めるための計画です。

なお、冬期バリアとは、積雪によって歩道の幅員が減少したり、凍結によって転倒しやすくなるなど、雪国が持つ冬期特有のバリアを呼びます。

